

△ウルティプロ吸入用カプセル [外]

【重要度】★ 【一般製剤名】グリコピロニウム 臭化物+インダカテロール マレイン酸塩 Glycopyrronium Bromide/Indacaterol Maleate 【分類】吸入気管支拡張剤 [LAMA+LABA]

【単位】△cap [グリコピロニウム 50 μ g+インダカテロール 110 μ g]

【常用量】1cap/日

【用法】専用器具ブリーズヘラーを用いて1日1回吸入 [一定の時間帯に吸入]

【透析患者への投与方法】治療上の有益性と危険性を勘案し、慎重投与 [グリコピロニウムの血中濃度上昇のおそれ] (1)

【保存期 CKD 患者への投与方法】Cr 30mL/min 未満では治療上の有益性と危険性を勘案し、慎重投与 [グリコピロニウムの血中濃度上昇のおそれ] (1)

【特徴】COPD の気道閉塞性障害に基づく諸症状の緩解 [長時間作用性吸入抗コリン剤及び長時間作用性吸入 β 2 刺激剤の併用が必要な場合] に適用。

【主な副作用・毒性】血清 K 値低下、心房細動、鼻炎、上気道感染、高血糖、不眠、めまい、頭痛、頻脈、緑内障、鼻出血、咳嗽、口内乾燥、嘔吐、発疹、筋肉痛、尿閉など

【代謝】■インダカテロール：主な代謝経路は水酸化、グルクロン酸抱合、酸化的開裂、N-脱アルキル化反応であり、代謝酵素は主として CYP3A4 と UGT1A1 (1) P-gp の低親和性基質 (1) ■グリコピロニウム：複数の経路で主に水酸化体と、カルボン酸誘導体に代謝され、酸化的代謝には複数の CYP 分子種が関与 (1)

【排泄】■インダカテロール：尿中未変化体排泄率 1.6~1.9% [吸入]、尿中回収率 9.7% [po] (1) ■グリコピロニウム：尿中に抱合体として 3%回収 [吸入] (1)

【CL】■グリコピロニウム：腎 CL 21.4~23.5L/hr で全身 CL の 60~70%で、尿細管分泌が関与 (1) ■インダカテロール：全身 CL 23L/hr、腎 CL 1.2~1.7L/hr (1)

【t1/2】■グリコピロニウム：33~57hr [吸入] (1)

【蛋白結合率】■グリコピロニウム：38~41% (1) ■インダカテロール：94~95% (1)

【Vd】■グリコピロニウム：Vss 83L/man, V β 376L/man [iv] (1) ■インダカテロール：2560L/man [iv] (1)

【MW】グリコピロニウム臭化物 398.33/インダカテロールマレイン酸塩 508.56

【透析性】資料なし (1) 除去率は低いと思われる (5)

【O/W 係数】

【更新日】20190716

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。